



SUPER FORMULA レースレポート

2018 SUPER FORMULA シリーズ第5戦

山本、シリーズポイント獲得。福住ファーステストラップ記録。

シリーズ名：2018 全日本スーパーフォーミュラ選手権
大会名：2018年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第5戦 ツインリンクもてぎ
距離：:4.801km×52周 (249.652km)
予選：8月18日(土) 薄曇り・観衆:16,500人 (主催者発表)
決勝：8月19日(日) 薄曇り・観衆:20,500人 (主催者発表)

2018 年度全日本スーパーフォーミュラ選手権シリーズ第 5 戦が、栃木県ツインリンクもてぎで開催された。TEAM MUGEN は、#16 山本尚貴、#15 福住仁嶺の 2 カー体制でこのレースへ参戦した。福住はヨーロッパで FIA-F2 選手権に出場するため前 3 戦を欠場しており、シリーズに復帰するのは 4 レースぶり。HONDA は、このレースに向けてバージョンアップを施した今季 2 基目のエンジンを投入した。

● 8 月 18 日 (土)

■フリー走行

#15 福住 4 番手 1 分 32 秒 816

#16 山本 13 番手 1 分 33 秒 268



土曜日午前 9 時 40 分から 1 時間の予定でフリー走行セッションが行われた。異常気象とまで言われた猛暑を伴う好天は続いていたが、レースウィークを迎えたツインリンクもてぎには北寄りの風が吹き、気温、路面温度とも低下ししのぎやすいコンディションとなった。

フリー走行が始まると、#15 福住、#16 山本とも、まずはミディアムタイヤを装着して順調に走り始めた。福住は序盤から快調にタイムを縮め上位に並び、#16 山本は中団のタイムで周回を重ねた。気温は 26 度、路面温度は 37 度とレースに適したコンディションである。

セッション折り返しを過ぎて、ソフトタイヤを装着する選手が出始めた。TEAM MUGEN の 2 選手はミディアムタイヤのまま周回を行い、セッション残り 15 分となったところで#15 福住はソフトタイヤを投入したが、#16 山本はミディアムでの調整を続け、セッション終了間際になってソフトタイヤに履き替えて公式予選に向けてのシミュレーションに入った。

最終的に#15 福住は 20 周を走って 17 周目に 1 分 32 秒 816 を記録し 4 番手、#16 山本は 19 周を走り最終ラップに 1 分 33 秒 268 を記録して 13 番手につけてフリー走行を終えた。

■公式予選

#16 山本 (Q1:4 位 1 分 33 秒 032 Q2:7 位 1 分 31 秒 960 Q3:7 位 1 分 32 秒 258)

#15 福住 (Q1:14 位 1 分 33 秒 743 Q2:14 位 1 分 32 秒 738 Q3:出走せず)

3 回のセッションで構成されるノックアウト方式の公式予選は、午後 2 時 30 分、20 分間の Q1 セッションから始まった。ツインリンクもてぎの上空は薄曇り、涼しい風が吹く。#15 福住、#16 山本ともコースイン後、中団のタイムで周回し一旦ピットへ帰還した。

セッション残り 7 分となったところでいつものように各車タイムアタックのために続々とコースイン、タイヤをウォームアップしてタイムアタックに入った。#16 山本は 1 分 33 秒 032 を記録、4 番手で Q1 セッションを突破したが、#15 福住のタイムは伸びず Q1 突破足切りラインの 14 番手になかなか届かなかったが、セッション終了のチェッカーフラッグが振られる直前にタイムアタックに入って 1 分 33 秒 743 を記録、14 番手に食い込んで Q2 セッション進出を決めた。

午後 3 時から 7 分間の Q2 セッションが行われた。#16 山本はチェッカーフラッグ寸前にタイムアタックを敢行、1 分 31 秒 960 を記録、7 番手で Q3 セッション進出を決めた。一方、#15 福住のタイムは伸び悩み、1 分 32 秒 738 の 14 番手に終わって Q3 セッション進出はならず、スターティンググリッドが決定した。

午後 3 時 17 分から Q3 セッションが行われ、#16 山本はポールポジションから 0 秒 667 遅れの 1 分 32 秒 258 を記録し、7 番手のスターティンググリッドにつくことが決まった。

● 8 月 19 日 (日)

■決勝

#16 山本 7 位 (52 周 1 時間 25 分 03 秒 616 ベストラップ 1 分 36 秒 068)

#15 福住 17 位 (52 周 1 時間 25 分 41 秒 455 ベストラップ 1 分 34 秒 758)

日曜午前 10 時から 30 分間にわたってフリー走行が行われた。TEAM MUGEN の 2 選手はまずソフトタイヤを装着してコースイン、#16 山本は 12 周走った後ミディアムタイヤへ交換して走行を続行した。#15 福住はソフトタイヤのまま 2 回ピットインしてセッティングの調製を行った。#16 山本のタイムは 1 分 35 秒 110 で 7 番手、#15 福住のタイムは 1 分 35 秒 325 で 12 番手だった。



決勝レース前のウォームアップでは 2 選手ともミディアムタイヤを装着、#15 福住は 5 周を走って 1 分 35 秒 843、#16 山本は 1 分 41 秒 709 を記録してそれぞれスターティンググリッドについた。

午後 2 時 15 分、決勝レースのフォーメーションラップが始まった。スターティンググリッド 14 番手と沈んだ#15 福住は、ミディアムタイヤを装着し燃料を少なく搭載したうえで 2 回ピットストップを行う作戦を選択、#16 山本はミディアムタイヤでスタート、レース途中でソフトタイヤへ交換する上位標準の作戦を選択した。

スタートの瞬間、#16 山本はうまく加速して 5 番手でレースを始めた。集団の中でレースを始めた#15 福住は予定通り 1 周目にピットイン、そこでソフトタイヤを装着すると集団の後方でコースへ復帰、前方に車両がない状態でプッシュにかかった。その結果、#15 福住は 4 周目、このレースのファーストストラップとなる 1 分 34 秒 758 を記録した。

3 周目、#16 山本はソフトタイヤを装着した後続車両にオーバーテイクを許し 6 番手へ後退したが、その後はポジションを守って周回を重ねると、13 周を走り終えてピットインし、ミディアムタイヤをソフトタイヤへ交換、給油を行ってコースへ復帰した。一方#15 福住はハイペースで走行を続けた結果、後方集団に追いついてしまった。

このままではハイペースでの走行が難しくなるので、ピットは予定よりも早めに 2 回目のピットストップを行う決断を下して#15 福住をピットへ呼び戻した。ピットでは消耗したソフトタイヤを別のセットのソフトタイヤに交換、給油を行った。スタート時に燃料を積まなかった分、給油時間はかかったが、ハイペース走行を続けてタイムロスを受取る作戦である。

再びトラフィックを回避した#15 福住は自分のペースで先行するライバルの追い上げにかかった。ところが見かけ上の順位を 14 番手にまで回復したとき、前方を走行するマシンをオーバーテイクしようとして追突する形で接触、フロントウイングが脱落したため予定外のピットインをすることになった。この結果#15 福住の順位は大きく落ちた。

ピットストップ後も着実に周回を重ねた#16 山本は 40 周目には実質の順位を 5 番手にまで上げた。しかしタイヤ消耗が進んだレース終盤、後方車両がじりじりと間隔を縮めてきた。#16 山本はポジションを守りにかかるが、フレッシュなタイヤを装着している後続車に対してはタイヤの消耗が進んでおりペースが上がらない。ファイナルラップ、#16 山本は 2 台の後続車に先行を許し、7 位で 52 週のレースを走りきってフィニッシュした。#15 福住は 17 位でレースを終えた。

#16 山本はドライバーポイント 2 点を獲得、通算 24 点としたがランキングでは同点の 2 番手へ後退した。TEAM MUGEN は 2 点のチームポイントを獲得しトップと 7 点差のランキング 4 番手となった。シリーズ第 6 戦は 9 月 8 日から 9 日、岡山県岡山国際サーキットで開催される。

■山本尚貴選手のコメント



「今週末あまり調子は良くありませんでした。でも決勝レースのスタートはうまくいって、展開的に良い方向へ進みそうだったんですけど、ピットのタイミングが合わず、コースに戻ったとき前にいたクルマとバトルしてロスしてしまい、後方から追い上げを許して最終ラップに 2 つポジションを落としてしまったのはもったいなかったです。でもポイントを 2 点獲ってチャンピオン争いに踏みとどまれましたし、調子が悪いながらも最低限の仕事はできたかなと思います。エンジンの差はないと感じるので、岡山に向けてあと一歩何かをしなければいけません」

■福住仁嶺選のコメント

「決勝では結果は残せませんでした。ポジティブな面も多かったレースだと思っています。2 ストップ戦略は悪くなくてレース中のペースも良かったのですが、自分のミスで無駄な接触をしてしまった事が反省点です。予選 Q2 はタイヤが十分に発熱しきらない感触でタイムが出ませんでした。また決勝スタートも改善しないといけない部分がありました。第 6 戦岡山に向けては、まずは予選でもっとパフォーマンスを上げて、良いスターティンググリッドについて、決勝ではもっと落ち着いてレースができるよう心がけようと思います」



■手塚長孝監督のコメント



「山本選手は良いスタートを決めてくれたので、展開的に良い方向へ行かろうと思っていました。5 位までポジションを上げていたのですが、最終周に追い上げてきた車両に抜かれてしまったのが残念です。それでも着実にポイントを取得できたので良かったです。福住選手もスタートダッシュは良かったです。2 ピット作戦を取り、すいているコースでブッシュしました。良いペースで走っていたので自信につながったと思います。しかし接触アクシデントは余計でしたね。総合的に決勝レースでタイヤのパフォーマンスが早く落ちてしまう傾向があるので、そこを解明して第 6 戦岡山に臨みます。引き続き暖かい御声援をお願いいたします」

■ Rankings

2018
STANDINGS DRIVER/TEAM

Po.	DRIVER	Rd.1	Rd.2	Rd.3	Rd.4	Rd.5	Rd.6	Rd.7	Total
		SUZUKA	AP	SUGO	FUJI	MOTEGI	OKAYAMA	SUZUKA	
1	No.3 ニック・キャンディ / KONDO RACING	2	0	8	11	6			27
2	No.18 山本尚貴 / TEAM MUGEN	11	0	10	1	2			24
3	No.1 石浦宏明 / JMS P.MU/CERUMO・INGING	5	0	0	8	11			24
4	No.20 平川亮 / ITOCHU ENEX TEAM IMPUL	0	1	0	5	8			14
5	No.19 関口雄飛 / ITOCHU ENEX TEAM IMPUL	8	0	0	3	0			11
6	No.36 中嶋一貴 / VANTELIN TEAM TOM'S	1	0	6	4	-			11
7	No.5 野尻智紀 / DOCOMO TEAM DANDELION RACING	6	0	3	0	1			10
8	No.2 国本雄貴 / JMS P.MU / CERUMO・INGING	0	0	0	6	0			6
9	No.8 大嶋和也 / UOMO SUNOCO TEAM LEMANS	0	0	0	2	4			6
10	No.6 松下寛治 / DOCOMO TEAM DANDELION RACING	0	0	0	0	5			5
11	No.7 トム・ディルマン / UOMO SUNOCO TEAM LEMANS	0	0	5	0	0			5
12	No.64 ナレイン・カーティケヤン / TCS NAKAJIMA RACING	0	0	4	0	0			4
13	No.65 伊沢拓也 / TCS NAKAJIMA RACING	4	0	0	0	0			4
14	No.4 山下隼太 / KONDO RACING	0	0	1	0	3			4
15	No.18 小林可夢偉 / carrozzeria Team KCMG	0	0	3	0	-			3
16	No.17 塚越広大 / REAL RACING	3	0	0	0	0			3
	No.37 ジェームス・ロスター / VANTELIN TEAM TOM'S	0	0	0	0	0			0
	No.18 中山 雄一 / carrozzeria Team KCMG	-	-	-	-	0			0
	No.50 千代勝正 / B-Max Racing team	0	0	0	0	0			0
	No.15 福住 仁貴 / TEAM MUGEN	0	-	-	-	0			0
	No.36 J.P.デ・オリベイラ / VANTELIN TEAM TOM'S	-	-	-	-	0			0

2018
STANDINGS DRIVER/TEAM

Po.	TEAM	Rd.1	Rd.2	Rd.3	Rd.4	Rd.5	Rd.6	Rd.7	Total
		SUZUKA	AP	SUGO	FUJI	MOTEGI	OKAYAMA	SUZUKA	
1	KONDO RACING	2	0	9	10	9			30
2	JMS P. MU/CERUMO・INGING	5	0	0	14	10			29
3	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL	8	0	0	8	8			24
4	TEAM MUGEN	10	0	10	1	2			23
5	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	6	0	2	0	6			14
6	VANTELIN TEAM TOM'S	1	0	6	4	0			11
7	UOMO SUNOCO TEAM LEMANS	0	0	5	2	4			11
8	TCS NAKAJIMA RACING	4	0	4	0	0			8
9	carrozzeria Team KCMG	0	0	3	0	0			3
10	REAL RACING	3	0	0	0	0			3
	B-Max Racing team	0	0	0	0	0			0

